

●令和7年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

文学研究科人間学専攻 修士課程

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■修士論文の評価 ■修了時アンケート調査 ■過年度修了生インタビュー ■学位授与数 ■就職者数	■修得単位数 ■成績評価(GPAを含む) ■休学者数・退学者数 ■研究課題届 ■修士論文題目届 ■修士論文経過報告書 ■内定者数 ■学会等発表・参加	■入学試験 - 提出書類 (志望動機・研究計画・小論文・卒業論文の概要(またはこれに相当するもの)) - 面接試験
専攻レベル	■修士論文の評価 ■修了時アンケート調査 ■過年度修了生インタビュー ■学位授与数 ■就職者数	■修得単位数 ■成績評価(GPAを含む) ■休学者数・退学者数 ■研究課題届 ■修士論文題目届 ■修士論文経過報告書 ■内定者数 ■学会等発表・参加	■入学試験 - 提出書類 (志望動機・研究計画・小論文・卒業論文の概要(またはこれに相当するもの)) - 面接試験
科目レベル	■修士論文の評価	■科目成績 ■授業アンケート	

令和7年度入学生用 玉川大学 文学研究科 人間学専攻 修士課程 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	2年間の（長期履修生の場合には、3年または4年間の）学修により、教育目標に沿って設置された授業科目の修得をし、本研究科が求める高度な専門的知識や学問に裏付けされた高度職業人としての資質を備えていること。
DP2	文学研究科が定めた評価基準を満たす修士論文を執筆する能力を有していること。
DP3	人間学専攻では、人間の営みと社会の諸問題を分析していく高度な専門的な知識に基づいた研究能力を有していること。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	5 月～3 月	学会等発表・参加	学会・研究会での発表者数・参加者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP2・DP3	○	○		学会・研究会での発表者数・参加者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する。	DP1・DP3			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する。
	9 月 3 月	科目成績	科目毎の成績評価を把握する。	DP1・DP3			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	成績評価（GPA を含む）	科目毎の成績評価・GPA、およびその過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する。
	9 月～3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP2・DP3	○	○		休学者、退学者の人数および理由を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	10 月	研究課題届	提出された研究課題届を確認し、共有する。	DP2	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
2 年次	5 月～3 月	学会等発表・参加	学会・研究会での発表者数・参加者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP2・DP3	○	○		学会・研究会での発表者数・参加者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。

	5月～3月	内定者数	内定者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1	○	○		内定者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	5月	修士論文題目届	提出された修士論文題目届を確認し、共有する。	DP2	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9月 3月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する。	DP1・DP3			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する。
	9月 3月	科目成績	科目毎の成績評価を把握する。	DP1・DP3			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9月 3月	成績評価(GPAを含む)	科目毎の成績評価・GPA、およびその過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9月 3月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する。
	9月～3月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP2・DP3	○	○		休学者、退学者の人数および理由を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	10月	修士論文経過報告書	提出された修士論文経過報告書を確認し、共有する。	DP2	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	2月	修士論文の評価	修士論文・口述試験・論文発表審査会の内容をもとに、獲得した学修成果を総合的に評価する。	DP1・DP2・DP3	○	○	○	修士論文・口述試験・論文発表審査会の内容により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評価する。DP の達成状況を把握し、修士の学位の授与が適切か検証する。
	3月	修了時アンケート調査	修了生を対象にアンケートを実施し、修士2年間の学生生活全般に関する意見や感想を確認し、共有する。	DP1・DP3	○	○		修了生の意見や感想などを把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する。
修了後	4月～5月	学位授与数	学位授与数および過年度からの推移を把握する。	DP1・DP2・DP3	○	○		学位授与数および推移から DP の達成状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する。
	4月～5月	就職者数	就職者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1	○	○		就職者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。

	3 月	過年度修了生インタビュー	過年度修了生を対象にインタビューを行い、共有する。	DP1・DP2・DP3	○	○		過年度修了生の修了後の進路を把握するとともに、各科目の授業改善やカリキュラム等の検証に活用する。
--	-----	--------------	---------------------------	-------------	---	---	--	--

※DPに係るアセスメントをまとめた検討は、4月～5月の研究科会にて実施する。

●令和7年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

文学研究科英語教育専攻 修士課程

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■修士論文の評価 ■修了時アンケート調査 ■過年度修了生インタビュー ■学位授与数 ■就職者数	■修得単位数 ■成績評価(GPAを含む) ■休学者数・退学者数 ■研究課題届 ■修士論文題目届 ■修士論文経過報告書 ■内定者数 ■学会等発表・参加	■入学試験 - 提出書類 (志望動機・研究計画・小論文・卒業論文の概要(またはこれに相当するもの)) - 面接試験
専攻レベル	■修士論文の評価 ■修了時アンケート調査 ■過年度修了生インタビュー ■学位授与数 ■就職者数	■修得単位数 ■成績評価(GPAを含む) ■休学者数・退学者数 ■研究課題届 ■研究計画書 ■修士論文題目届 ■修士論文経過報告書 ■内定者数 ■学会等発表・参加	■入学試験 - 提出書類 (志望動機・研究計画・小論文・卒業論文の概要(またはこれに相当するもの)、英語能力の証明) - 面接試験
科目レベル	■修士論文の評価	■科目成績 ■授業アンケート	

令和7年度入学生用 玉川大学 文学研究科 英語教育専攻 修士課程 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	2年間の（長期履修生の場合には、3年または4年間の）学修により、教育目標に沿って設置された授業科目の修得をし、本研究科が求める高度な専門的知識や学問に裏付けされた高度職業人としての資質を備えていること。
DP2	文学研究科が定めた評価基準を満たす修士論文を執筆する能力を有していること。
DP3	英語教育専攻では、現代の英語教育に関わる諸問題を専門的・実践的に研究し、解決できる能力を有していること。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	5 月～3 月	学会等発表・参加	学会・研究会での発表者数・参加者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP2・DP3	○	○		学会・研究会での発表者数・参加者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する。	DP1・DP3			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する。
	9 月 3 月	科目成績	科目ごとの成績評価を把握する。	DP1・DP3			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	成績評価（GPA を含む）	科目ごとの成績評価・GPA およびその過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する。
	9 月～3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP2・DP3	○	○		休学者、退学者の人数および理由を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	10 月	研究課題届	提出された研究課題届を確認し、共有する。	DP2	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	3 月	研究計画書	提出された研究課題届を確認し、指導教員以外の教員とも共有し、内容について具体的なフィードバックを提供する。	DP2		○		学修達成度および修士論文執筆に向けた研究の進捗状況を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。

2 年次	5 月～3 月	学会等発表・参加	学会・研究会での発表者数・参加者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP2・DP3	○	○		学会・研究会での発表者数・参加者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	5 月～3 月	内定者数	内定者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1	○	○		内定者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	5 月	修士論文題目届	提出された修士論文題目届を確認し、共有する。	DP2	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する。	DP1・DP3			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する。
	9 月 3 月	科目成績	科目ごとの成績評価を把握する。	DP1・DP3			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	成績評価（GPA を含む）	科目ごとの成績評価・GPA およびその過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	9 月 3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP3	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する。
	9 月～3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1・DP2・DP3	○	○		休学者、退学者の人数および理由を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	10 月	修士論文経過報告書	提出された修士論文経過報告書を確認し、共有する。	DP2	○	○		学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	2 月	修士論文の評価	修士論文・口述試験・論文発表審査会の内容をもとに、獲得した学修成果を総合的に評価する。	DP1・DP2・DP3	○	○	○	修士論文・口述試験・論文発表審査会の内容により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評価する。DP の達成状況を把握し、修士の学位の授与が適切か検証する。
修了後	3 月	修了時アンケート調査	修了生を対象にアンケートを実施し、修士 2 年間の学生生活全般に関する意見や感想を確認し、共有する。	DP1・DP3	○	○		修了時に修了生からフィードバックを収集し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する。
	4 月～5 月	学位授与数	学位授与数および過年度からの推移を把握する。	DP1・DP2・DP3	○	○		学位授与数および推移から DP の達成状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する。

	4月～5月	就職者数	就職者数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1	○	○		就職者数を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する。
	3月	過年度修了生インタビュー	過年度修了生を対象にインタビューを行い、共有する。	DP1・DP2・DP3	○	○		過年度修了生の修了後の進路を把握するとともに、各科目の授業改善やカリキュラム等の検証に活用する。

※DPに係わるアセスメントをまとめた検討は、4月～5月の研究科会にて実施する。

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

農学研究科資源生物学専攻 修士課程

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■進路調査・進学状況 ■修了時満足度調査 ■就職者数・進学者数 ■学位授与数	■修得単位数 ■満足度調査 ■休学者数・退学者数	■各種入学試験 ■入学志願書等の記載内容 ■面接試験 ■志望理由書の内容
専攻レベル	■進路調査・進学状況 ■修了時満足度調査 ■就職者数・進学者数 ■学位授与数	■GPA ■修得単位数 ■中間発表の内容	■各種入学試験 ■入学志願書等の記載内容 ■面接試験 ■志望理由書の内容
科目レベル	■最終試験(口述発表)の評価 ■修士論文の評価	■GPA ■成績評価 ■授業アンケート	

令和7年度入学生用 玉川大学 農学研究科 資源生物学専攻 修士課程 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	論理的思考過程を経て、物事の結論を導くことができる能力を備えている。
DP2	自然科学を深く理解し、技術者、研究者、教員に必要な専門知識を備えている。
DP3	技術者、研究者、教員に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また科学英語の基本を備え、英語による文章表現ができる能力を備えている。
DP4	リサイクルや地球環境の保全に配慮し、また、バイオテクノロジーの利用に関して、正しい倫理観を備えている。
DP5	教育職員専修免許状（理科、農業）取得者については、中等教育機関の現場で求められる高度な知識と技能ならびに高い科目運営能力と教材開発能力を備え、時代を担うリーダーを育成できる能力を備えている。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	7 月 1 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する	DP2・DP3・DP5			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月	中間発表の内容	修士論文の概要、研究の進捗状況、今後の研究計画、論文執筆の予定を確認する	DP1・DP2		○		修士論文の概要、研究の進捗状況を把握し、研究指導の内容、指導体制の点検・改善に活用する
	2 月～3 月	満足度調査	カリキュラム、研究指導、教育環境等に関するアンケートを実施する	DP1・DP2・DP3	○			各調査項目の満足度等を分析し、カリキュラム、研究指導、教育環境等の点検・改善に活用する
	2 月～3 月	修得単位数	平均・最高・最低取得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	2 月～3 月	GPA	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2		○	○	学修達成度を把握し、GPA の低い院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	2 月～3 月	成績評価	科目や科目群での成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する * 必修科目…DP1	DP1*・DP2・DP3*・DP4・DP5*			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する

			*「科学英語表現」・「Research Presentation」…DP3 * 教職科目群…DP5					
	3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1・DP2・DP3・DP4・DP5	○			休学者、退学者の人数および理由の把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
2 年次	7 月 1 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、理解度や指導に関する意見を確認する	DP2・DP3・DP5			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月	最終試験（口述発表）の評価	最終試験（口述発表）により修了時までに獲得した学修成果を総合的に評価する	DP1・DP2・DP3・DP4・DP5			○	最終試験（口述発表）により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評価する。DP の達成状況を把握し、修士の学位の授与が適切か検証する
	2 月	修士論文の評価	修士論文により修了時までに獲得した学修成果を総合的に評価する	DP1・DP2・DP3・DP4・DP5			○	修士論文により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評価する。DP の達成状況を把握し、修士の学位の授与が適切か検証する
	2 月	進路調査・進学状況	就職者数・進学者数および就職先・進学先を把握する	DP1・DP2・DP3・DP4・DP5	○	○		就職・進学状況を把握し、カリキュラムおよび学位授与基準等の検証に活用する
	3 月	修了時満足度調査	DP の達成度（自己評価）、カリキュラム、研究指導、学修支援、教育環境等に関するアンケートを実施する	DP1・DP2・DP3・DP5	○	○		DP の達成度（自己評価）から修士の学位授与基準が適切か検証する 各調査項目の満足度等を分析し、カリキュラム、研究指導、教育環境等の点検・改善に活用する
	3 月	修得単位数	平均・最高・最低取得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	GPA	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2		○	○	学修達成度を把握し、GPA の低い院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	成績評価	科目や科目群での成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する * 必修科目…DP1	DP1*・DP2・DP3*・DP4・DP5*			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する

			*「科学英語表現」・「Research Presentation」…DP3 * 教職科目群…DP5					
	3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1・DP2・DP3・DP4・DP5	○			休学者、退学者の人数および理由の把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
修了後	4 月～5 月	学位授与数	学位授与数および過年度からの推移を把握する	DP1・DP2・DP3・DP4・DP5	○	○		学位授与数および推移から DP の達成状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する
	4 月～5 月	就職者数・進学者数	就職者・進学者の人数及び割合について確認し、過年度からの推移を把握する	DP1・DP2・DP3・DP4・DP5	○	○		就職・進学状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する。

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

農学研究科資源生物学専攻 博士課程後期

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■進路調査 ■修了時満足度調査 ■就職者数 ■学位授与数	■修得単位数 ■満足度調査 ■休学者数・退学者数	■各種入学試験 ■入学志願書等の記載内容 ■面接試験 ■志望理由書の内容
専攻レベル	■進路調査 ■修了時満足度調査 ■就職者数 ■学位授与数	■GPA ■修得単位数 ■予備審査会の内容	■各種入学試験 ■入学志願書等の記載内容 ■面接試験 ■志望理由書の内容
科目レベル	■最終試験(口述発表)の評価 ■博士論文の評価	■GPA ■成績評価 ■授業アンケート	

令和7年度入学生用 玉川大学 農学研究科 資源生物学専攻 博士課程後期 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	国際的に活躍する技術者、研究者として、あるいは大学教員として自立する準備ができている。極めて高度な知識と新たな分野を創造できる能力を備えている。
DP2	国際的に活躍できる英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また、英語科学論文を書く能力を備えている。
DP3	研究指導教員とは異なる教員との交流も行い、幅の広い研究経験を持つ。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	1 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する	DP1・DP2			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月～3 月	満足度調査	カリキュラム、研究指導、教育環境等に関するアンケートを実施する	DP1・DP2	○			各調査項目の満足度等を分析し、カリキュラム、研究指導、教育環境等の点検・改善に活用する
	2 月～3 月	修得単位数	平均・最高・最低取得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	2 月～3 月	GPA	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2		○	○	学修達成度を把握し、GPA の低い院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	2 月～3 月	成績評価	科目での成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する	DP1・DP2			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する
	3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1・DP2・DP3	○			休学者、退学者の人数および理由の把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
2 年次	1 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する	DP1・DP2			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月～3 月	満足度調査	カリキュラム、研究指導、教育環境等に関するアンケートを実施する	DP1・DP2・DP3	○			各調査項目の満足度等を分析し、カリキュラム、研究指導、教育環境等の点検・

								改善に活用する
	2月～3月	修得単位数	平均・最高・最低取得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2	○	○		学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	2月～3月	GPA	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2		○	○	学修達成度を把握し、GPA の低い院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	2月～3月	成績評価	科目での成績評価(S～F 評価の割合等) を把握する	DP1・DP2・DP3			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する
	3月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1・DP2・DP3	○			休学者、退学者の人数および理由の把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
3 年次	11 月	予備審査会の内容	博士論文の概要・構成、プレゼンテーションを評価する。学術論文の掲載および博士論文執筆の進捗状況を確認する	DP1・DP2・DP3		○		博士論文の概要、論文執筆の進捗状況、学術論文の掲載状況を把握し、研究指導の内容、指導体制の点検・改善に活用する
	12 月	博士論文審査会の評価	博士論文審査会（口述発表）により修了時までには獲得した学修成果を総合的に評価する	DP1・DP2・DP3			○	博士論文審査会（口述発表）により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評価する。DP の達成状況を把握し、博士の学位の授与が適切か検証する
	1 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する	DP1・DP2			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月	博士論文の評価	博士論文により修了時までには獲得した学修成果を総合的に評価する	DP1・DP2・DP3			○	博士論文により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評価する。DP の達成状況を把握し、博士の学位の授与が適切か検証する
	3 月	修了時満足度調査	DP の達成度（自己評価）、カリキュラム、研究指導、学修支援、教育環境等に関するアンケートを実施する	DP1・DP2・DP3	○	○		DP の達成度（自己評価）から博士の学位授与基準が適切か検証する 各調査項目の満足度等を分析し、カリキュラム、研究指導、教育環境等の点検・改善に活用する

	3 月	修得単位数	平均・最高・最低取得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2	○	○	○	学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	GPA	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP2		○	○	学修達成度を把握し、GPA の低い院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	成績評価	科目での成績評価(S～F 評価の割合等) を把握する	DP1・DP2			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する
	3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1・DP2・DP3	○			休学者、退学者の人数および理由の把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
	3 月	進路調査状況	就職者数および就職先を把握する	DP1・DP2・DP3	○	○		就職状況を把握し、カリキュラムおよび学位授与基準等の検証に活用する
修了後	4 月～5 月	学位授与数	学位授与数および過年度からの推移を把握する	DP1・DP2・DP3	○	○		学位授与数および推移から DP の達成状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する
	4 月～5 月	就職者数	就職者の人数及び割合について確認し、過年度からの推移を把握する	DP1・DP2・DP3	○	○		就職状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する。

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

工学研究科機械工学専攻・電子情報工学専攻共通 修士課程

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■学位論文 ■総修得単位数 ■修了時アンケート ■学生動態統計 B	■授業アンケート ■業績リスト ■研究倫理講習受講状況 ■TOEIC スコア ■学生動態統計 A	■入学試験
専攻レベル	■学位論文審査会 ■最終試験	■中間発表会 ■技術発表会 ■特別講義の参加状況 ■修得単位数 ■GPA	■入学志願書等の記載内容 ■筆記試験 ■口述試験 ■希望する指導教員との事前面談
科目レベル		■成績評価 ■500 番台科目単位認定	■英語運用能力 ■数学運用能力

令和 6 年(2024 年)1 月 25 日更新

令和7年度入学生用 玉川大学 工学研究科 機械工学専攻・電子情報工学専攻 修士課程 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DPa1	工学が担う社会的意義と目的を理解している。教員をめざす者は、学校教育が担う社会的意義と目的、ならびに数学もしくは工業に関する中等教育が担う社会的意義と目的を理解している。
DPa2	講義科目と演習科目の単位修得を通じて体系的な専門知識を獲得している。関連する文献を正確に読むことができる。教員をめざす者は、獲得した知識を科目指導と教材開発に活用できる。
DPa3	修士論文に関係する先行研究の内容を理解しており、自身の研究成果の新しい側面を説明できる。
DPb1	論理的思考ができ、思考の過程を説明できる。教員をめざす者は、論理的思考の基礎を生徒に指導できる。
DPb2	批判的思考により新しい問題を発見できる。教員をめざす者は、数学教育での探究学習または工業教育での課題研究でのテーマ設定に際して、生徒に助言できる。
DPb3	実験、シミュレーション、数理解析等を用いて科学的または技術的な知見を見出すことができる。教員をめざす者は、初歩的な手法を生徒に指導できる。
DPb4	問題設定から解決策までを文章として書くことができ、定められた時間でプレゼンテーションができる。教員をめざす者は、場面に応じた表現方法を生徒に指導できる。
DPc1	在学中に不正のない研究活動を行った経験を活かし、今後も不正のない行動をとることができる。
DPc2	他者を助け、自らを助けることができる。問題解決に向けて周囲と円滑なコミュニケーションをとることができる。国内外の出来事や動向に関心をもち、技術者、研究者または教育者としての責任を心に留めて、社会の発展に関与できる。
DPc3	より高度な専門知識を獲得すること、より新しい専門知識へと更新することに対する努力を継続できる。ことばを大切にし、より豊かな言語表現を求める努力を継続できる。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	5 月	500 番台科目単位認定	単位認定申請書の認定[可否]	DPa2			○	研究指導担当教員は、入学時点での知識・理解に関する学修成果と、態度・指向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。
	7 月	研究倫理講習受講状況	研究倫理講習の参加状況[参加不参加]とアンケート結果[回答内容]	DPc1	○			研究科は、研究環境の点検と改善に活用。研究指導担当教員は、研究室運営の点検と改善に活用。

	7 月	TOEIC スコア (6 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			研究科は、英語学習支援活動の改善に活用。研究指導担当教員は、態度・指向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。
	7 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			研究科は、全体傾向を分析し、カリキュラムの点検と改善に活用。科目担当者は、授業の内容と提供方法の点検と改善に活用。
	8 月	成績評価	春学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	研究指導担当教員は、個々の科目に対する指導学生の知識・理解に関する学修成果を、指導学生の期內修得単位数の様子から態度・志向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。
	9 月	技術発表会	各専攻の演習 A での成果をプレゼンテーション[発表内容と質疑応答]と、演習 A での活動の様子[計画書と予稿]	DPa1 DPa2 DPb* DPc*		○		専攻所属教員は、発表内容から汎用的技能に関する学修成果を、質疑応答から知識・理解に関する学修成果を、さらに演習 A での活動の様子から態度・志向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。研究科と専攻は、全体傾向から、演習 A と技術発表会の運営の点検と改善に活用。
	1 月	TOEIC スコア (12 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (2 回目)
	1 月	特別講義の参加状況	特別講義全回の参加状況[参加回数] と各回レポート[回答内容]	DPa1 DPc2 DPc3		○		研究指導担当教員は、態度・指向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。研究科と専攻は、特別講義の運営の検証と改善に活用。
	1 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (2 回目)
	2 月	成績評価	秋学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	(1 年次 8 月同調査に準じる) (2 回目)
	2 月	業績リスト	論文、学会発表等の対外活動に関する業績リスト[回答内容]	DPa1 DPa3 DPb*	○			研究科は、回答内容から総合的な学修成果を把握し、研究指導体制の点検と改善に活用。

				DPc*				
	3 月	中間発表会	修士論文で扱う内容の途中経過を プレゼンテーション[発表内容と質 疑応答、準備状況]	DP*		○		専攻所属教員は、発表内容から汎用的技 能に関する学修成果を、質疑応答から知 識・理解に関する学修成果を、発表に至 るまでの準備状況から態度・志向性に関 する学修成果を把握し、学修指導に活 用。研究科と専攻は、学生全体の修士論 文に関する進捗を把握し、中間発表会の 運営、研究指導体制等の修士論文作成支 援に係る諸事の検証と改善に活用。
2 年次	4 月	修得単位数 GPA	2 年次 4 月時点修得単位数[単位数] 2 年次 4 月時点 GPA[数値]	DPa2		○		研究科は、カリキュラムが想定する進度 で知識・理解に関する学修成果を学生が 得ているかを把握し、カリキュラムの検 証と改善に活用。
	4 月	学生動態統計 A	進級者数[人] 退学者数[人] 休学者数[人] 留学者数[人] インターンシップ参加人数[人]	DPc3	○			研究科は、過去比較等で全体傾向を把握 し、研究指導体制とカリキュラムの検証 と改善に活用。
	7 月	研究倫理講習受講状況	研究倫理講習の参加状況[参加不参加] とアンケート結果[回答内容]	DPc1	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (2 回目)
	7 月	TOEIC スコア (6 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (3 回目)
	7 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (3 回目)
	8 月	成績評価	春学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	(1 年次 8 月同調査に準じる) (3 回目)
	1 月	TOEIC スコア (12 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (4 回目)
	1 月	特別講義の参加状況	特別講義全回の参加状況[参加回数] と各回レポート[回答内容]	DPa1 DPc2 DPc3		○		(1 年次 1 月同調査に準じる) (2 回目)

	1 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (4 回目)
	2 月	学位論文審査会 最終試験	修士論文のプレゼンテーション[発表内容と質疑応答、準備状況]と口述試問[回答内容]	DP*		○		専攻所属教員は、修士論文の発表内容と最終試験の解答内容から知識・理解に関する学修成果を、修士論文の準備状況と質疑応答の様子から汎用的技能と態度・志向性に関する学修成果を把握し、研究指導方法の点検と改善に活用。研究科と専攻は、研究指導支援体制と審査体制の点検と改善に活用。
	2 月	成績評価	秋学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	(1 年次 8 月同調査に準じる) (4 回目)
	2 月	業績リスト	論文、学会発表等の対外活動に関する業績リスト[回答内容]	DP*	○			(1 年次 2 月同調査に準じる) (2 回目)
	2 月	学位論文 総修得単位数	学位論文の審査結果[合否] 最終試験の結果[合否] 在学中の総修得単位数[単位数]	DP*	○			研究科は、学修成果が総合的に達成されているか否かを把握し、DP、修了要件、学位論文審査基準等の修了に係る諸事の点検と改善に活用。
	3 月	修了時アンケート	修了判定後から修了式までの間に実施の匿名アンケート[回答内容]	DP*	○			研究科は、回答内容に基づいて、研究科自身の総合的な点検と改善に活用。
修了後	4 月	学生動態統計 B	学位授与数[人] 就職者数[人] 進学者数[人] 専修免許状取得者数[人]	DPc2 DPc3	○			研究科は、過去比較等で全体傾向を把握し、研究指導体制とカリキュラムの点検と改善に活用。

ディプロマ・ポリシーに係るアセスメントをまとめた検討は、4 月～5 月の研究科会にて実施する。

アスタリスク*はワイルドカードを表す。

令和 6 年（2024 年）1 月 25 日作成

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

工学研究科システム科学専攻 博士課程後期

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■学位論文 ■総修得単位数 ■修了時アンケート ■学生動態統計 B	■授業アンケート ■業績リスト ■研究倫理講習受講状況 ■TOEIC スコア ■学生動態統計 A	■入学試験
専攻レベル	■学位論文審査会 ■最終試験	■博士論文予備審査会 ■中間発表会 ■特別講義の参加状況 ■修得単位数 ■GPA	■入学志願書等の記載内容 ■筆記試験 ■口述試験 ■希望する指導教員との事前面談
科目レベル		■成績評価	■英語運用能力

令和 6 年(2024 年)1 月 25 日更新

令和7年度入学生用 玉川大学 工学研究科 システム科学専攻 博士課程後期 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DPa1	工学が担う社会的意義と目的を高いレベルで理解している。
DPa2	講義科目と演習科目の単位修得を通じて体系的な専門知識を獲得している。関連する文献を日本語、英語問わずに、正確に読むことができる。
DPa3	博士論文に関係する先行研究の内容を理解しており、自身の研究成果の新しい側面を説明できる。
DPb1	論理的思考ができ、思考の過程を説明できる。論理の検証を自ら行うことができる。
DPb2	批判的思考により新しい問題を発見できる。問題を解決または議論することの意義を説明できる。
DPb3	実験、シミュレーション、数理解析等を用いて科学的または技術的な知見を見出すことができる。同じ結果を再現するための条件等を明確に説明できる。
DPb4	問題設定から解決策までを文章として書くことができ、定められた時間でプレゼンテーションができる。日本語、英語問わず、論文を書くことができ、学会で発表できる。
DPc1	在学中に不正のない研究活動を行った経験を活かし、今後も不正のない行動をとることができる。
DPc2	他者を助け、自らを助けることができる。問題解決に向けて周囲と円滑なコミュニケーションをとることができる。国内外の出来事や動向に関心をもち、技術者、研究者または教育者としての責任を心に留めて、社会の発展に関与できる。
DPc3	より高度な専門知識を獲得すること、より新しい専門知識へと更新することに対する努力を継続できる。ことばを大切にし、より豊かな言語表現を求める努力を継続できる。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	7 月	研究倫理講習受講状況	研究倫理講習の参加状況[参加不参加]とアンケート結果[回答内容]	DPc1	○			研究科は、研究環境の点検と改善に活用。研究指導担当教員は、研究室運営の点検と改善に活用。
	7 月	TOEIC スコア（6 月）	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			研究科は、英語学習支援活動の改善に活用。研究指導担当教員は、態度・指向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。
	7 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			研究科は、全体傾向を分析し、カリキュラムの点検と改善に活用。科目担当者は、授業の内容と提供方法の点検と改善

								に活用。
	8 月	成績評価	春学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	研究指導担当教員は、個々の科目に対する指導学生の知識・理解に関する学修成果を、指導学生の期內修得単位数の様子から態度・志向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。
	1 月	TOEIC スコア (12 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (2 回目)
	1 月	特別講義の参加状況	特別講義全回の参加状況[参加回数] と各回レポート[回答内容]	DPa1 DPc2 DPc3		○		研究指導担当教員は、態度・指向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。研究科と専攻は、特別講義の運営の検証と改善に活用。
	1 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (2 回目)
	2 月	成績評価	秋学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	(1 年次 8 月同調査に準じる) (2 回目)
	2 月	業績リスト	論文、学会発表等の対外活動に関する業績リスト[回答内容]	DPa1 DPa3 DPb* DPc*	○			研究科は、回答内容から総合的な学修成果を把握し、研究指導体制の点検と改善に活用。
	3 月	中間発表会	博士論文で扱う内容の途中経過をプレゼンテーション[発表内容と質疑応答、準備状況]	DP*		○		専攻所属教員は、発表内容から汎用的技能に関する学修成果を、質疑応答から知識・理解に関する学修成果を、発表に至るまでの準備状況から態度・志向性に関する学修成果を把握し、学修指導に活用。研究科と専攻は、博士論文に関する進捗を把握し、中間発表会の運営、研究指導体制等の博士論文作成支援に係る諸事の検証と改善に活用。
2 年次	4 月	修得単位数 GPA	2 年次 4 月時点修得単位数[単位数] 2 年次 4 月時点 GPA[数値]	DPa2		○		研究科は、カリキュラムが想定する進度で知識・理解に関する学修成果を学生が得ているかを把握し、カリキュラムの検証と改善に活用。

	4 月	学生動態統計 A	進級者数[人] 退学者数[人] 休学者数[人] 留学者数[人] 研修研究参加人数[人]	DPc3	○			研究科は、過去比較等で全体傾向を把握し、研究指導体制とカリキュラムの検証と改善に活用。
	7 月	研究倫理講習受講状況	研究倫理講習の参加状況[参加不参加]とアンケート結果[回答内容]	DPc1	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (2 回目)
	7 月	TOEIC スコア (6 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (3 回目)
	7 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (3 回目)
	8 月	成績評価	春学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	(1 年次 8 月同調査に準じる) (3 回目)
	1 月	TOEIC スコア (12 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (4 回目)
	1 月	特別講義の参加状況	特別講義全回の参加状況[参加回数]と各回レポート[回答内容]	DPa1 DPc2 DPc3			○	(1 年次 1 月同調査に準じる) (2 回目)
	1 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○			(1 年次 7 月同調査に準じる) (4 回目)
	2 月	成績評価	秋学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○	(1 年次 8 月同調査に準じる) (4 回目)
	2 月	業績リスト	論文、学会発表等の対外活動に関する業績リスト[回答内容]	DPa1 DPa3 DPb* DPc*	○			(1 年次 2 月同調査に準じる) (2 回目)
	3 月	中間発表会	博士論文で扱う内容の途中経過をプレゼンテーション[発表内容と質疑応答、準備状況]	DP*			○	(1 年次 3 月同調査に準じる) (2 回目)
3 年次	4 月	修得単位数 GPA	3 年次 4 月時点修得単位数[単位数] 3 年次 4 月時点 GPA[数値]	DPa2			○	(2 年次 4 月同調査に準じる) (2 回目)
	4 月	学生動態統計 A	進級者数[人] 退学者数[人] 休学者数[人]	DPc3	○			(2 年次 4 月同調査に準じる) (2 回目)

			留学者数[人] 研修研究参加人数[人]					
7 月	研究倫理講習受講状況	研究倫理講習の参加状況[参加不参加]とアンケート結果[回答内容]	DPc1	○				(1 年次 7 月同調査に準じる) (2 回目)
7 月	TOEIC スコア (6 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○				(1 年次 7 月同調査に準じる) (5 回目)
7 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○				(1 年次 7 月同調査に準じる) (5 回目)
8 月	成績評価	春学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○		(1 年次 8 月同調査に準じる) (5 回目)
秋	博士論文予備審査会	博士論文のプレゼンテーション[発表内容と質疑応答、準備状況]	DP*		○			主査、副査、教務担当は、発表内容と質疑応答から、博士論文を提出するのに十分な研究成果であることを確認。研究科は、準備状況を、予備審査会の規定、運営等の点検と改善に活用。
1 月	TOEIC スコア (12 月)	TOEIC スコア分布[得点表]	DPc3	○				(1 年次 7 月同調査に準じる) (6 回目)
1 月	特別講義の参加状況	特別講義全回の参加状況[参加回数]と各回レポート[回答内容]	DPa1 DPc2 DPc3		○			(1 年次 1 月同調査に準じる) (3 回目)
1 月	授業アンケート	匿名アンケート[回答内容]	DPa2	○				(1 年次 7 月同調査に準じる) (6 回目)
2 月	学位論文審査会 最終試験	博士論文のプレゼンテーション[発表内容と質疑応答]と口述試問[回答内容]	DP*		○			専攻所属教員は、博士論文の発表内容と最終試験の解答内容から知識・理解に関する学修成果を、博士論文の準備状況と質疑応答の様子から汎用的技能と態度・志向性に関する学修成果を把握し、研究指導方法の点検と改善に活用。研究科と専攻は、研究指導支援体制と審査体制の点検と改善に活用。
2 月	成績評価	秋学期の成績[SABCF]	DPa2 DPc3			○		(1 年次 8 月同調査に準じる) (6 回目)
2 月	業績リスト	論文、学会発表等の対外活動に関する業績リスト[回答内容]	DP*	○				(1 年次 2 月同調査に準じる) (3 回目)

	2 月	学位論文 総修得単位数	学位論文の審査結果[合否] 最終試験の結果[合否] 在学中の総修得単位数[単位数]	DP*	○			研究科は、学修成果が総合的に達成されているか否かを把握し、DP、修了要件、学位論文審査基準等の修了に係る諸事の点検と改善に活用。
	3 月	修了時アンケート	修了判定後から修了式までの間に 実施の匿名アンケート[回答内容]	DP*	○			研究科は、回答内容に基づいて、研究科自身の総合的な点検と改善に活用。
修了後	4 月	学生動態統計 B	学位授与数[人] 単位取得満期退学者数[人] 就職者数[人]	DPc2 DPc3	○			研究科は、過去比較等で全体傾向を把握し、研究指導体制とカリキュラムの点検と改善に活用。

ディプロマ・ポリシーに係るアセスメントをまとめた検討は、4 月～5 月の研究科会にて実施する。
アスタリスク＊はワイルドカードを表す。

令和 6 年（2024 年）1 月 25 日作成

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

マネジメント研究科マネジメント専攻

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■就職者数 ■学位授与数 ■修了時アンケート	■GPA ■休学者数・退学者数	■入学志願書等の内容 ■面接試験
専攻レベル	■資格の取得状況 ■修士論文・課題研究報告書の評価 ■修了時アンケート ■学位授与数	■GPA ■休学者数・退学者数 ■修得単位数 ■資格の取得状況 ■修士論文・課題研究報告書中間発表の内容 ■年次アンケート ■成績評価	■入学志願書等の内容 ■面接試験 ■資格(英語・会計資格等)の取得状況
科目レベル	■修士論文・課題研究報告書の評価	■成績評価 ■授業アンケート	—

令和7年度入学生用 玉川大学大学院マネジメント研究科マネジメント専攻（修士課程） ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	世界全体をひとつのシステムとして捉え、マネジメントのあるべき姿を思索する視点を有している。
DP2	【グローバル・マーケティング研究コース】経営戦略や中小企業経営の理論を修得し、専門的知識が備わっている。 【会計学研究コース】会計、法律、金融・経済の理論を修得し、専門的知識が備わっている。 【グローバル・ツーリズム研究コース】 ツーリズム産業や地域創成の現場のマネジメントならびにマーケティングの理論を修得し、専門的知識が備わっている。 【スクール・マネジメント研究コース】非営利組織経営の一つとしての学校経営の理論を修得し、専門的知識が備わっている。
DP3	社会の課題に対して論理的に思考し、実践することができる。

【アセスメント実施計画】

対象年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	9 月 3 月	授業アンケート	院生の理解度と教員の指導状況について確認する	DP1 DP2 DP3			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月	修士論文・課題研究報告書中間発表の内容	修士論文の概要、研究の進捗状況、今後の研究計画、論文執筆の予定を確認する	DP3		○		修士論文及び課題研究報告書の概要及び進捗状況を把握し、研究指導の内容、指導体制の点検・改善に活用する
	3 月	修得単位数	過年度からの推移及び傾向等を把握する	DP2		○		学修達成度を把握し、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	資格の取得状況	国家資格等の取得状況を把握する	DP2		○		資格の取得状況を確認し、カリキュラムとの整合性を確認する
	3 月	GPA	過年度からの推移及び傾向等を把握する	DP2	○	○		学修達成度を把握し、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	成績評価	科目や科目群での成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する。 ※修士論文・課題研究報告書に関する科目は DP3、その他の科目は DP1、DP2 に対応	DP1 DP2 DP3		○	○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する

	3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1 DP2 DP3		○		休学者、退学者の人数および理由の把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
2 年次	9 月 3 月	授業アンケート	院生の理解度と教員の指導状況について確認する	DP1 DP2 DP3			○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月	修士論文・課題研究報告書の評価	修士論文・課題研究報告書により修了時まで獲得した学修成果を総合的に評価する	DP1 DP2 DP3		○	○	修士論文・課題研究報告書により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評価する。DP の達成状況を把握し、修士の学位の授与が適切か検証する
	3 月	修了時アンケート	DP の達成度（自己評価）、カリキュラム、研究指導、学修支援、教育環境等に関するアンケートを実施する	DP1 DP2 DP3	○	○		DP の達成度（自己評価）から修士の学位授与基準が適切か検証する 各調査項目の満足度等を分析し、カリキュラム、研究指導、教育環境等の点検・改善に活用する
	3 月	修得単位数	過年度からの推移及び傾向等を把握する	DP2		○		学修達成度を把握し、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	資格の取得状況	国家資格等の取得状況を把握する	DP2		○		資格の取得状況を確認し、カリキュラムとの整合性を確認する
	3 月	GPA	過年度からの推移及び傾向等を把握する	DP2	○	○		学修達成度を把握し、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	成績評価	科目や科目群での成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する。 ※修士論文・課題研究報告書に関する科目は DP3、その他の科目は DP1、DP2 に対応	DP1 DP2 DP3		○	○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する
	3 月	休学者数・退学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1 DP2 DP3	○			休学者、退学者の人数および理由の把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
修了後	4 月～5 月	学位授与数	学位授与数および過年度からの推移を把握する	DP1 DP2 DP3	○	○		学位授与数および推移から DP の達成状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する

	4月～5月	就職者数	就職者の人数を把握し、過年度からの推移及び傾向等を把握する	DP1 DP2 DP3	○			就職の状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する
--	-------	------	-------------------------------	-------------------	---	--	--	---------------------------

※DPに係るアセスメントをまとめた検討は、4～5月の研究科会にて実施する

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

教育学研究科教育学専攻 修士課程

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■学位授与数 ■就職者数・進学者数 ■GPA(累積)	■GPA(当該学期) ■修得単位数 ■休学者数・退学者数	■入学試験 ■入学志願書 ■所見書(又は推薦書)
専攻レベル	■GPA ■成績評価 ■修得単位数 ■免許・資格取得状況 ■修士論文発表審査会の内容 ■修士論文の口頭試問・評価 ■学生アンケート	■新入生アンケート ■学生アンケート ■GPA ■成績評価 ■修得単位数 ■修士論文構想発表会、中間発表会の内容 ■研究課題届・研究題目確定届の内容	■入学試験(筆答・論述試験、面接・口述試験) ■入学志願書等(学歴、単位取得状況、成績、志望理由、研究計画)の内容
科目レベル	■教育学特別演習Ⅲ	■成績評価 ■学生アンケート ■教育学特別演習Ⅰ、教育学特別演習Ⅱ	

令和7年度入学生用 玉川大学 教育学研究科 教育学専攻 修士課程 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	・教育学研究の意義、目的、手法等を正しく理解し、自立した研究活動を行なうことができる。
DP2	・教育実践および教員養成課程の諸課題を発見し、課題を解決することができる。
DP3	・社会で必要とされる幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を持ち、社会的責任を持って社会発展に積極的に関与できる。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	5 月	新入生アンケート	新入生を対象にアンケートを実施し、学生の学修及び生活上の状況を把握し、教員指導の方向性を確認する。	DP1・DP2・DP3		○		新入生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラム、学生の生活状況の検証に活用する。
	5 月	修士論文構想発表会	2 年次生の修士論文の構想発表会に参加させ、次年度の修士論文作成についての見通しを持つよう指導する。修士論文作成、進行計画についてのイメージを確認する。	DP1・DP2・DP3		○		新入生と指導教員で事後に話し合い、研究方針を決めていく参考とする。
	8 月	学生アンケート	全学生を対象にアンケートを実施し、学生の学修及び生活上の状況を把握し、教員指導の方向性を確認する。	DP1・DP2・DP3		○	○	学生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラム、学生の生活状況の検証に活用する。
	9 月～1 月	教育学特別演習 I	修士論文執筆に必要な知識・技能を教授し、研究論文の作成能力獲得程度を把握する。	DP1・DP2・DP3			○	修士論文執筆に必要な知識・技能を教授し、研究論文の作成能力獲得程度を把握し、以後の指導に活用する。
	10 月	中間発表会への参加	中間発表会に参加させ、2 年生の修士論文の研究状況を理解する	DP1		○		次年度の修士論文の構想、研究対象を明確化し、修士論文作成までの計画に

			よう指導し、修士論文の構想等の計画を確認する。					活用させる。以降の研究指導に活用する。
	10 月	研究課題届提出	次年度に執筆する修士論文の研究課題を提出させ、内容を確認し、共有する。	DP1		○		次年度の修士論文作成までの手順を確認するよう指導し、修士論文の構想、研究対象を明確にさせる。以降の研究指導に活用する。
	1 月	修士論文発表審査会	2 年生の修士論文の内容を把握し、自身の研究の方法等を吟味するよう指導する。発表会での質疑等から、研究への意欲、知識・理解の程度を把握する。	DP1・DP2		○		1 年生の質疑等から、研究への意欲、知識・理解等を確認し、以降の研究指導に活用する。
	2 月	学生アンケート	全学生を対象にアンケートを実施し、学生の学修及び生活上の状況を把握し、教員指導の方向性を確認する。	DP1、 DP2、DP3		○	○	学生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラム、学生の生活状況の検証に活用する。
	3 月	修得単位数、成績評価、GPA	研究科会にて学生の修得単位数、成績評価、GPA 等を把握し、学生の学修進捗状況を確認する。	DP1、 DP2、DP3	○	○	○	学生の学修進捗状況を確認し、今後の指導方針を検討し、共有する。
	4 月～7 月	教育学特別演習Ⅱ	修士論文執筆に必要な知識・技能を教授し、研究論文の作成能力獲得程度を把握する。	DP1			○	修士論文執筆に必要な知識・技能を教授し、研究論文の作成能力獲得程度を把握し、以後の指導に活用する。
2 年次	5 月	修士論文構想発表会	修士論文の構想発表に対し、教員等から多様な視点による助言を行う。構想の内容を確認し、把握する。	DP1		○		以降の修士論文作成を進める際の参考とする。指導方法について検討する。
	8 月	学生アンケート	全学生を対象にアンケートを実施し、学生の学修及び生活上の状況を把握し、教員指導の方向性を確認する。	DP1・DP2・ DP3		○	○	学生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラム、学生の生活状況の検証に活用する。

9 月～1 月	教育学特別演習Ⅲ	修士論文の執筆および取りまとめるための指導を行い、研究論文の作成能力獲得程度を把握する。	DP1・DP2・DP3			○	修士論文に必要な知識・技能を教授し、修士論文を期日内に作成させる。今後の論文指導に活用する。
10 月	中間発表会における発表	中間発表会にて教員等から助言し、発表内容から進捗状況等を把握する。	DP1		○		助言を参考に、修士論文の完成を目指すよう指導する。以降の論文作成の指導に活用する。
11 月	研究題目確定届提出	修士論文の研究題目の最終確定内容を確認し、共有する。	DP1		○		修士論文の結論を見通し、期日内での提出を目指すよう指導する。以降の研究指導に活用する。
1 月	修士論文提出及び口頭試問	修士論文を提出させ、主査及び副査の口頭試問を行い、表現能力や論理的思考力を確認する。	DP1、DP3		○		修士論文の判定材料とする。今後の研究指導の点検・改善に活用する。
1 月	修士論文発表審査会	修士論文の内容を発表させ、質疑において幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を示し、自立した研究活動を行なえるかを確認する。	DP1、DP2、DP3		○		今後の研究・教育活動に資するよう共通理解を得る。
2 月	学生アンケート	全学生を対象にアンケートを実施し、学生の学修及び生活上の状況を把握し、教員指導の方向性を確認する。	DP1、DP2、DP3		○	○	学生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラム、学生の生活状況の検証に活用する。
3 月	修得単位数、成績評価、GPA、学位授与数、就職者数、進学者数、退学者数、休学者数、免許・資格取得状況	研究科会にて学生の修得単位数、成績評価、GPA 等を把握し、学生の学修進捗状況を確認する。学位授与数、就職者数、進学者数、退学者数、休学者数、免許・資格取得状況等について、過年度からの推移等を把握する。	DP1、DP2、DP3	○	○	○	教育課程、指導方法等を検討し、必要な見直しを行う。

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

教育学研究科教職専攻(教職大学院)

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■学位授与数 ■就職者数・進学者数 ■GPA(累積)	■GPA(当該学期) ■単位修得率 ■退学者数・休学者数	■入学試験 ■入学志願書 ■所見書(又は推薦書)
専攻レベル	■教員就職率 ■授業アンケート ■修了生アンケート(学生によるディプロマ・ポリシーの達成の認識調査) ■フォローアップ研修参加者数	■GPA(当該学期) ■単位修得率 ■退学者数・休学者数 ■授業アンケート	■入学試験 ■入学志願書 ■所見書(又は推薦書) ■研究計画書 ■活動報告書(又は成績証明書等)
科目レベル		■成績評価(定期試験・レポート等) ■単位修得率 ■授業アンケート	

令和7年度入学生用 玉川大学 教育学研究科 教育学研究科教職専攻（教職大学院） ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	確かな授業力と総合的な人間力。
DP2	学校現場の課題を見極めることのできる高度の理解力と診断力。
DP3	具体的な課題解決策を策定する企画力。
DP4	解決策を実際に試みるための展開力。
DP5	教育活動を客観的に追求する研究力。
DP6	高度な専門的知識や上記資質能力を生かした他の教員等への指導力。
DP7	教育を取り巻く環境が著しく変化する中での学校教育の役割や教育行政との関係を理解し、適切な教育経営を行うことができる実践的指導力。
DP8	ICT の活用等多様な授業形態や指導方法で子どもたちを授業にひきつけ、授業を円滑かつ効果的に運営できる実践的指導力
DP9	学校の教育活動における道德教育の意義や在り方を理解し、子どもたちと真正面から向き合って心の問題を解決し得る実践的指導力。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時 期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	8 月 2 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6		○	○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	3 月	単位修得率	平均・最高・最低取得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6	○	○	○	学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	成績評価（定期試験・レポート等）	科目や科目群での成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する
	3 月	GPA（当該学期）	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○	○		学修達成度を把握し、GPA の低い院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	退学者数・休学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○	○		休学者、退学者の人数および理由を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する

2 年次	8 月 2 月	授業アンケート	全科目を対象に授業アンケートを実施し、学生の理解度や教員の指導に関する意見を確認する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6		○	○	各科目に対する院生の理解度や教員の指導状況を把握し、授業改善やカリキュラムの検証に活用する
	2 月～3 月	修了生アンケート（学生によるディプロマ・ポリシーの達成の認識調査）	DP の達成度（自己評価）、カリキュラム、研究指導、学修支援、教育環境等に関するアンケートを実施する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9		○		DP の達成度（自己評価）から学位授与基準が適切に検証する 各調査項目の満足度等を分析し、カリキュラム、研究指導、教育環境等の点検・改善に活用する
	3 月	単位修得率	平均・最高・最低取得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6		○	○	学修達成度を把握し、修得単位数の少ない院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	成績評価（定期試験・レポート等）	科目や科目群での成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9			○	学修達成度を把握し、カリキュラム、研究指導の点検・改善に活用する
	3 月	GPA（当該学期）	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○	○		学修達成度を把握し、GPA の低い院生への指導等を含め、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	退学者数・休学者数	休学者・退学者の人数及び理由を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○	○		休学者、退学者の人数および理由を把握し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する
	3 月	教員就職率	教員就職数・進学者数等を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9		○		教員就職率を把握し、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
	3 月	GPA（累積）	平均・最高・最低 GPA を確認し、過年度からの推移等を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○			終了時の学修達成度を把握し、指導の内容、体制の点検・改善に活用する
修 了 後	3 月	学位授与数	学位授与数および過年度からの推移を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○			学位授与数および推移から DP の達成状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する
	3 月	就職者数・進学者数	就職者・進学者のおよび就職先・進学先を把握し、過年度からの推移を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○			就職・進学状況を把握し、学位授与基準の検証等に活用する
	6 月 11 月	フォローアップ研修参加者数	修了生を対象とする研修会の参加者数を把握する	DP1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	○			学び続ける教師としての態度を確認し、研究指導、カリキュラムの点検・改善に活用する

※DPに係るアセスメントをまとめた検討は、4月～5月の研究科会にて実施する

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

脳科学研究科心の科学専攻 修士課程

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■就職者数・進学者数の確認 ■修得単位数 ■研究業績評価 ■アンケート調査 ■修士論文の評価	■研究進捗発表 ■擬似ピアレビュー ■中間発表会 ■修得単位数	■入学志願書等の記載内容 ■入学試験の結果
専攻レベル	研究科レベルと同一	研究科レベルと同一	研究科レベルと同一
科目レベル		■成績評価	

令和7年度入学生用 玉川大学 脳科学研究科 心の科学専攻 修士課程 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	研究倫理に則った研究を遂行することができる。
DP2	自身の研究を主体的に遂行することができる。
DP3	脳科学関連分野における学術的・社会的背景のもとに適切な研究目的を設定することができる。
DP4	先行研究の内容を的確に理解し、自身の研究内容の学術的位置付けを理解することができる。
DP5	自身の研究目的に適った研究方法を用いることができる。
DP6	客観的な証拠にもとづいて論証し、自身の研究目的に対応した結論を導出することができる。
DP7	先行研究の内容を的確に理解し、自身の研究への質疑に対して論理的に応答することができる。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	8 月・3 月	成績評価	科目の成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する。	DP1, DP3, DP4			○	学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
	2 月	研究進捗発表の内容	脳科学ワークショップにおける研究発表について研究科全体で確認し評価する。	DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、修士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	擬似ピアレビューの内容	脳科学ワークショップの発表に対する質問への返答をエディター（教員）、および研究科全体で確認する。	DP6, DP7	○	○		質問に対する返答内容を確認することで、研究に対する大学院生の理解度の評価や修士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1, DP4	○	○		学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
2 年次	8 月・3 月	成績評価	科目の成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する。	DP1, DP3, DP4			○	学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
	8 月	中間発表の内容	修士論文の概要、研究の進捗状況、今後の研究計画、論文執筆の予定を確認する。	DP3, DP4, DP5, DP6, DP7	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、修士論文作成のための指導方針に活用する。

	9 月	擬似ピアレビューの内容	中間発表の発表に対する質問への返答をエディター、および研究科全体で確認する。	DP6, DP7	○	○		質問に対する返答内容を確認することで、研究に対する大学院生の理解度の評価や修士論文作成のための指導方針に活用する。
	2 月	研究進捗発表の内容	脳科学ワークショップにおける研究発表について研究科全体で確認し評価する。	DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、修士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1, DP4	○	○		学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
	3 月	研究業績評価	修士課程で行なった研究業績について評価する。	DP3, DP4, DP5, DP6	○	○		修士課程 2 年間で行った研究活動を把握し、研究指導の改善に活用する。
	3 月	修士論文の評価	修士論文により修了時までに獲得した学修成果を総合的に評価する。	DP1, DP2, DP3, DP4, DP5, DP6 DP7	○	○		修士論文により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評する。DP の達成状況を把握し、修士の学位の授与が適切か検証する。
	3 月	アンケート調査	修了生を対象に修士課程における研究活動に関するアンケートを実施し、理解度や指導に関する意見を確認する。	DP2, DP4	○	○		大学院生の意見や感想を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
修了後	4～5 月	就職者数・進学者数の確認	修了生の進路について把握する。	DP2, DP4	○	○		就職・進学状況を把握し、カリキュラムおよび学位授与基準等の検証に活用する。

●令和 7 年度入学生用 玉川大学大学院 学修成果に関する評価の方針(アセスメント・ポリシー)

脳科学研究科脳科学専攻 博士課程後期

評価主体\時期	修了時・修了後	在学中	入学前・入学時
研究科レベル	■就職者数・進学者数の確認 ■修得単位数 ■研究業績評価 ■アンケート調査 ■博士論文の評価	■研究進捗発表 ■擬似ピアレビュー ■中間発表会 ■予備審査会 ■修得単位数	■入学志願書等の記載内容 ■修士論文の内容 ■入学試験の結果
専攻レベル	研究科レベルと同一	研究科レベルと同一	研究科レベルと同一
科目レベル		■成績評価	

令和7年度入学生用 玉川大学 脳科学研究科 脳科学専攻 博士課程後期 ディプロマ・ポリシーに関するアセスメントの実施計画

【ディプロマ・ポリシー】

No.	内容（学生が修了までに身につけるべき能力）
DP1	研究倫理に則った研究を遂行することができる。
DP2	自身の研究を主体的に遂行することができる。
DP3	脳科学関連分野における学術的・社会的背景のもとに適切な研究目的を設定することができる。
DP4	先行研究の内容を的確に理解し、自身の研究内容の学術的位置付けを理解することができる。
DP5	自身の研究目的に適った研究方法を用いることができる。
DP6	客観的な証拠にもとづいて論証し、自身の研究目的に対応した結論を導出することができる。
DP7	先行研究の内容を的確に理解し、自身の研究への質疑に対して論理的に応答することができる。
DP8	学術的もしくは社会的な意義を持つ研究をすることができる。
DP9	脳科学関連分野に関する学術論文を公表することができる。

【アセスメント実施計画】

対象 年次	実施時期	アセスメント項目	内容等	対応 DP	評価主体（レベル）			結果の活用
					研究科	専攻	科目	
1 年次	8 月・3 月	成績評価	科目の成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する。	DP1, DP3, DP4			○	学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
	2 月	研究進捗発表の内容	脳科学ワークショップにおける研究発表について研究科全体で確認し評価する。	DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7, DP8	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、博士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	擬似ピアレビューの内容	脳科学ワークショップの発表に対する質問への返答をエディター（教員）、および研究科全体で確認する。	DP6, DP7	○	○		質問に対する返答内容を確認することで、研究に対する大学院生の理解度の評価や博士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1, DP4	○	○		学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
2 年次	8 月・3 月	成績評価	科目の成績評価（S～F 評価の割合等）を把握する。	DP1, DP3, DP4			○	学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。

	8 月	中間発表の内容	博士論文の概要、研究の進捗状況、今後の研究計画、論文執筆の予定を確認する。	DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7, DP8	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、博士論文作成のための指導方針に活用する。
	9 月	擬似ピアレビューの内容	中間発表に対する質問への返答をエディター（教員）、および研究科全体で確認する。	DP6, DP7	○	○		質問に対する返答内容を確認することで、研究に対する大学院生の理解度の評価や博士論文作成のための指導方針に活用する。
	2 月	研究進捗発表の内容	脳科学ワークショップにおける研究発表について研究科全体で確認し評価する	DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7, DP8	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、博士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	擬似ピアレビューの内容	脳科学ワークショップの発表に対する質問への返答をエディター（教員）、および研究科全体で確認する。	DP6, DP7	○	○		質問に対する返答内容を確認することで、研究に対する大学院生の理解度の評価や博士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1, DP4	○	○		学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
3 年次	8 月	中間発表の内容	博士論文の概要、研究の進捗状況、今後の研究計画、論文執筆の予定を確認する。	DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7, DP8	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、博士論文作成のための指導方針に活用する。
	9 月	擬似ピアレビューの内容	中間発表に対する質問への返答をエディター（教員）、および研究科全体で確認する。	DP6, DP7	○	○		質問に対する返答内容を確認することで、研究に対する大学院生の理解度の評価や博士論文作成のための指導方針に活用する。
	11 月	予備審査会	博士論文について発表を行い、議論する。	DP1, DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7, DP8	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、博士論文作成のための指導方針に活用する。
	2 月	研究進捗発表の内容	脳科学ワークショップにおける研究発表について研究科全体で確認し評価する。	DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7	○	○		発表内容、質問に対する返答や議論を確認することで、博士論文作成のための指導方針に活用する。
	3 月	修得単位数	修得単位数を確認し、過年度からの推移等を把握する。	DP1, DP4	○	○		学習達成度を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。

	3 月	研究業績評価	博士課程後期で行なった研究業績について評価する。	DP3, DP4, DP5, DP6,	○	○		博士課程 3 年間で行なった研究活動を把握し、研究指導の改善に活用する。
	3 月	博士論文の評価	博士論文により修了時までに獲得した学修成果を総合的に評価する。	DP1, DP2, DP3, DP4, DP5, DP6, DP7, DP8, DP9	○	○		博士論文により修了予定者の学修成果が DP の能力に対して十分であるか評する。DP の達成状況を把握し、博士の学位の授与が適切か検証する。
	3 月	アンケート調査	修了生を対象に博士課程後期における研究活動に関するアンケートを実施し、理解度や指導に関する意見を確認する。	DP2, DP4	○	○		大学院生の意見や感想を把握し、カリキュラムや研究指導の改善に活用する。
修了後	4～5 月	就職者数・進学者数の確認	修了生の進路について把握する。	DP2, DP4	○	○		就職・進学状況を把握し、カリキュラムおよび学位授与基準等の検証に活用する。